

平成 26 年度第 1 回 伏見区基本計画推進区民会議 会議録

日時：平成 26 年 6 月 10 日（火）

午前 10 時～11 時 30 分

場所：伏見区総合庁舎 4 階大会議室

1 開会、久保伏見区長挨拶

本日は、お忙しい中、またお暑い中を御出席いただき感謝申し上げます。

橋爪座長や村井副座長をはじめ、委員の皆様におかれては、日頃、伏見区政全般に大変御理解・御協力をいただいていることに、心からお礼申し上げます。

伏見区では、平成 23 年 1 月に、区の 10 年間のまちづくりの指針として、「伏見区基本計画～皆でつくる すむまち伏見～」を策定した。

この会議は、この基本計画に基づく取組を着実に進めていくうえで、区民の皆様の御意見を幅広く反映させるために設置したもので、今年で 4 年目を迎える。

この後、事務局から説明するが、この間の取組の中で、区民の方々のまちづくり活動は、着実に浸透し、また、これまで以上に広がっていると、私ども区役所は、ひしひしと実感しているところで、何よりも心強く思う次第である。

委員の皆様には、広く各界で御活躍されている方々ばかりであるが、御多忙な中を御出席いただいたことに、重ねて感謝申し上げますとともに、どうか貴重な御意見を賜うようお願いしたい。

伏見区役所としまして、私や担当区長が先頭に立って、皆様方の思いがかたちにつながっていく、また、「伏見区に住んでよかった」と区民の方々が実感できるようなまちづくりを今後とも進めてまいりたいと考えている。

結びに、本日の会議が実りあるものとなるよう、心から願うとともに、皆様の今後の御多幸、御健勝を祈念して、私からの挨拶とさせていただきます。

2 委員紹介

3 橋爪座長挨拶

一言挨拶申し上げます。京都市関係の私の関わっている審議会としては、観光の新しい振興計画の座長として議論を始めた。2020 年、東京オリンピック開催の時に、東京だけが盛り上がるのではなく、京都にも海外の方に来ていただきたい、観光客を迎えたいという思いで、従来の予定よりも少し前倒しで次の観光振興計画を作っている。現在の京都の観光振興計画は以前とは変わっている。以前は年間 5000 万人の方に来ていただく、5000 万人という人数、どれだけ多くの方に来ていただくかということであったが、前回の計画も私が中心となって作ったが、今の計画は、人数ではなく、来ていただいた方みんなに感動してもらい、5000 万人に感動いただくような観光都市を目指す計画。量ではなく質を考えていこうというのが今の計画。次の計画はそれに加えて何を考えていくのか、その一つの前提が、これからの日本は人口が減っていく、人口減少が想定される。ただ日本中、均一に人口が減るわけではない、魅力あるまちは人口を維持できる、もしくは若干増えてくるところがあるかもしれない。大阪市でいうと中央区など。京都においても、もっと人が住みやすいまちをつくることで、人口減少になる社会の中で、京都をどういう場所にしていくのか。観光はその点で重要。魅力あるまちには外から人がやってこられる。大学生も 4 年間学んだあとも、定住していただく方が増えていかないと日本に人口が減っていく中で、京都も同じように減っていくという前提では駄目。観光が京都の新しい魅力を打ち出す契機となれば。伏見区も前計画では若い人が多いと言っていたが、高齢社会が進んでいる。人口が減っている社会の中で、どのような方に来ていただくのか。

今年度、新たな区長、公募委員を迎えた。活発な審議、議論を。計画の進捗確認だけでなく、幅広く意見を述べることも要綱に記載されているので、市民、区民の立場で御意見を願います。

4 事務局からの報告等

(1) 平成 26 年度伏見区運営方針について（松葉課長）

- ・事務局より資料 1 の説明

(2) 伏見区区民活動支援事業について（織田課長）

- ・事務局より資料 2・3・4 の説明

<質疑応答>

座長

この案件については、前年度会議で御意見をいただき、募集の在り方の修正やシンボルマーク

を投票で決めたりした。今年の審査会はいつ開催されるのか。

事務局

6月27日（金）を予定。審査委員の方には、今お願いしているところである。

座長

次回のこの会議で、採択件数、審査会の様子等を報告いただきたい。

（3）伏見区基本計画重点戦略融合プロジェクトについて（織田課長、松葉課長）

・事務局より資料5の説明

座長

ふしざくに関しては、いきいき市民活動センター、青少年活動センター、京エコロジーセンター等支援いただいている立場から、今年度の展開について御意見いただければ。

委員

補足をさせていただくと、最近、京エコロジーセンターへふしざく絡みの相談で、別々に3団体が来られた。伏見のヨシ原プロジェクトをフィールドにした龍谷大学政策学部のゼミがヨシ焼きの取組に関わっていききたいという話、ふしざくの中でヨシを製品化していくようなプロジェクトをしたいという話、伏見のヨシ原の事務局の3つ。エコの話なので、顔合わせや、助成金の取り方などの相談をさせていただいた。ふしざくの中でいろんな主体の方が出会って、いざ何とかしようというのは、区の助成金もあるが、専門のセンターに行くというような形になっている手ごたえを感じている。

委員

当初は、御年配の方が多く、若い世代が少ないということで、センターに来る若者をひっぱって来てほしいという声もあったが、今年度は若者の参加が増えている。座長の挨拶にもあったように、学生たちが京都に定住できるような形にしていくことが大事だと思うが、センターに来る若者は、意外とセンターでボランティア活動をする中で、地域と関わったことがきっかけで京都を好きになっていく、人が好きになっていく、京都にずっと住みたいと思う人が多いと感じる。ふしざくに若い人たちがもっともっと参加することで、伏見の良いところが再発見できる場になっていけばと感じている。

委員

ふしざくの中でいろんな団体が出てきているが、具体的に高齢者に対して取組を行いたいという団体の連携化を進めている。高齢者が地域に入っていけるような場所づくりということで、より実践的な活動に向けてのコーディネートを行っている。ふしざくでいろいろなチーム団体が出てきている中で、それらの活動をより実践的、課題に向けてしっかり取り組めるような団体にどうコーディネートをしていけるかをサポート団体として考えていきたい。

もう一点、若者の参加というところで、龍谷大学でコーディネートしている団体にふしざくの参加を進めて、参加していただいたが、実際に地域の皆様と学生が触れ合ってみたフィードバックとして、伏見の大学に進学したものの、地域の皆さんと話すきっかけがなく卒業していく、留学生として伏見に来て、日本人や市民と話をせず、同じ留学生同士としか話をしないなどの悩みを通して、ふしざくに関わることで日本や地域についてのイメージが変わったという感想が寄せられたので、そういった場に混ざるところが大切だと感じる。

委員

学生（若者）、地域、企業は実は自分のセクションではないところとつながりたいという思いをもっていながら、きっかけがないように感じる。現在、エコ学区サポートセンターとして、京都市の地域ぐるみでエコをやっている事業で、春日野学区や下鳥羽学区がモデルとしてされたことを全222学区で全市的にやっていると実施しており、地縁団体と関わっているが、やはり若い方々にも来てもらいたい、新たな担い手としてやっていきたいという思いはあるようで、ふしざくの中で出てくる取組も、地域でのエコ活動という切り口でつなげていけるような感じがする。ふしざくでやっていることを少し違うセクションの支援的な面とつなげていけば、より良くなっていくと思う。商工会議所、工業会など「地域貢献をしたいけれど、どうしてよいか分からない」という声も聞くので、今後一度見に来てもらえたらより良くなるのではと思う。

座長

宣伝をもっとしたほうがよいということか。

委員

分からない、知らないというのもあると思うので、来ていただいたらどのような感じか分かる。

座長

宣伝用の資料（チラシ）とかあるのか。

委員

目に触れたり、出し続けないと分からない。そういうのがあったらより良い。

座長

ふしぎくのPR方法はどのように。

事務局

本日、手元には配布していないが、チラシ、ポスターはたくさん作っている。また、うちわにふしぎくのマークを入れての配布、市民しんぶん伏見区版、ホームページ等で行っている。努力はしているが、なかなか目に触れても興味ない人は多くおられる。他にアイデアがあれば、逆に活かしていきたい。

座長

委員にもチラシを配ってもらえたら、御協力いただけるのではないと思う。

伏見連続講座は、昨年度防災に関する講座の参加者が多かったかと思うが、今年度も開催されるのか。

事務局

昨年度、NPO 法人防災白熱アカデミィに講座開催をお願いしたが、区民の方の意識が高く、定員をはるかに超えた。今年もお願いしたが、主催団体の代表者が海外に行かれるとのことで今年度は辞退された。来年度以降、防災関係の講座も実施させていただきたいと思っている。

座長

この件についても、次回に今年度の講座内容やふしぎくの途中報告等をいただきたい。

（4）意見交換

委員

先ほど座長の挨拶で、5,000万人の観光客の話があった。混雑や渋滞などのいろんな問題があると思うが、マイカーを抑制できたら。やはりLRT、路面電車を京都は走らせて、公共交通を利用して、歩いて観光をしてもらうということをしてはどうか。10年計画くらいでやっていかないといけない。予算も必要であると思うが、一つ一つ増やしていく、一度には難しくても、伏見から発信するなど、いろんなところから取り組んでもらえたらありがたい。観光客が歩いて楽しんで、ほんとに京都に来てよかったと思ってもらえたらありがたい。

醍醐コミュニティバスは、2月に10周年を迎え、4月には乗客が500万人を突破した。地域力、市民の協働奉仕ということで、日本で初めての取組である。行政の力なしで立ち上げ、ゼロから発信してきた。路面電車もやれないことはない。みんなの力で、京都市とも話し合いをして、伏見区皆で足並みをそろえて、汗をかけば、一つ一つ解決ができるのではないか。せっかくのプロジェクトを活かしていければ。皆のお力をお借りして、伏見の活性化を図れたらと思う。

座長

LRTはどこからどこまでというアイデアをもっておられるのか。

委員

出町柳から白梅町まで。嵐電と叡電があるので、そこに線路を。見本を。電車は借りてきたらよい。それならお金はあまりかからない。京都の人にまずはLRTの魅力を目で見てもらったら、力を併せてできるのでは。伏見で走れば便利になるのではないか。郊外に車を停めて、市内の公共交通機関を利用して、市内の観光を楽しんでもらうということを考えていかないといけない。

委員

「住みたい、住み続けたいまちづくり」ということであるが、少子高齢化が進む中、京都市でも自治会加入促進の運動が進められているものの、自治会に入っておられない方も結構おられる。自分は、小学校区でいうと、美豆小学校区、淀南学区に住んでいるが、毎年高齢者数の調査をしている。6,000人の人口で昨年度は800人を超える方が70歳を超えていた。日頃、住宅の中に入ってくる車を見ている、救急車や高齢者施設の車、病院に行くタクシーなどの出入りが多い。4月には高齢者の孤独死もあった。健全者に対しては、取組がいろいろと進められているが、単身

の高齢者世帯,特に身体の弱い方は見捨てられている状況にあると思う。そういう人たちを行政,住民がどう見守っていくのかということかと思うが,地元の住民も放置しているわけでない,社協の取組等もあるが,それでもなおそういう事案が発生する。そういう方をどのように見守っていったらよいのか,もっと何かできることがあればと感じている。

委員

自分は向島地域に住んでいる。実は2年ほど前の会議で,宇治川氾濫について危惧を伝えていた。今,国土交通省が進めている総合開発である,天ヶ瀬ダムの改修計画。下流地域の多くの方は危険を感じていた。実際,昨年9月16日の大雨で警報,緊急避難指示が出て,危惧していたとおり,下流地域,淀,納所,羽束師地域に被害が出た。あと一時間降り続いていたら,60年前の水害が再現されたと思う。緊急放流を加えたので,堤防の一部に破損が見られる。あの時の避難指示で向島南小学校へ避難するようにとあったが,土地が低くてかえって危険なので,避難に向かっていた人にニュータウンへ避難するように伝えた。素人判断でも避難指示が間違っていると分かる。このまま宇治川の改修工事が進んでいくと,下流域の住民は不安でならない。国土交通省の管轄だとは思いますが,市や区も住民の不安を解消するために,具体的な説明と,今後は水害の時にどうすればよいのかをきちんと検討いただきたい。

委員

避難指示が出て,住民の方に向島小学校に避難していただいた。区の運営方針も河川の補強等の記載がない。隠元橋から下流の500mの河川敷のところは道路が狭い。一方通行ではない。すれ違うときは危険。そこのところまで,補充と土手を強固にさせていただいたが,工事が途中で止まってしまった。隠元橋まで延長してもらえたら,土手が切れることはない。道路,水害のことも考えていただいて,運営方針に入れていただきたい。

委員

私の学区がまともに水害被害を受けた。常日頃,府や国土交通省には地域としてはお願いしているが,危惧していたとおりになった。下鳥羽小学校は水浸しにも関わらず,小学校への避難指示があった。こんな連絡の悪いことはない。地域防災支援プロジェクトとあるが,京都市は直接関係ないかもしれないが,地域の安全を保ってもらうには,京都市としても府や国への働きかけが必要。河川管理について,住民だけでなく市も頑張っていたいただきたい。防災訓練は地震ばかりであるが,水害についても訓練の充実をお願いしたい。

委員

南浜に住んでいるが,水害の際に,PTAやおやじの会で何ができるか。消防分団や消防の体制も薄かった。我々としては,携帯やラインを使って,横のつながりをもって,地域で活動した。子どもたちの安全を守るため,消防の許可をとり,宇治川派流にキープアウトのテープを貼った。そういう横のつながりで,自分達で防げるような二次災害ということは,我々レベルでは考えていかないとダメだと痛感した。後日,下鳥羽地域の床上浸水のお手伝いをさせていただいたが,年配の方一人ではなかなかできない。次に何ができるか,誰がお手伝いできるのかを行政は考えていかないといけない。PTAやおやじの会も協力は惜しまない。そういった気持ちで活動していきたい。

座長

従来とは違った集中豪雨が最近多い。区役所としての水害対策についての考えがあれば。

区長

昨年の台風18号の時は,前職が子育て支援政策監であったことから,下鳥羽保育園と児童館の園庭が使えないというのが第一報であった。現地に職員が急行した。その他の地域の話は聞かなかった。テレビ等が当初は嵐山の被害が大きく取り上げられていたが,時間が経過するにつれて,三川合流地帯,伏見区の被害も大きかったことが分かった。伏見区の水防対策は喫緊の課題であるという認識はもっている。水防は,京都市の中で最後は伏見区に集まるということをしかり伝えていかなければならない。市の建設局等はもちろん,京都府,国等々への働きかけは大変大事。久我・久我の杜・羽束師,淀・淀南・納所学区からのそのあたりに関する要望もいただいているということなので,その他の地域についても,しっかりと取り組んでいきたい。

座長

非常に大事なことなので,またこの場でも御報告いただければ。

委員

関東の東青梅市で2か月分の雨が一度に降ったということで,今回,避難準備命令が発令され,

準備を促すような対策がとられていた。京都市においても、避難準備命令の発令はあるのか。

事務局

京都市においても3つの段階で避難情報を出している。一つは、避難準備情報（＝避難準備を呼び掛けるとともに、要援護者の方については、避難行動を起こしてもらう）、避難勧告、最終的には避難指示を出している。

座長

避難場所を指定していてもそこに行けないとか、避難場所が浸水しているという状況は、検討していかなければならない。

事務局

御指摘があったように、現在、市が指定している避難場所については、原則的に、地震が起こった時に家に住めないことを受け、避難所での生活を想定しており、水害用の避難場所というのは想定外であった。台風18号を受けて、緊急避難場所という概念を新たに作り、水害時にどこに逃げたらよいかということ新たに指定するという動きがある。これは区役所と本庁が協議しながら、水害時の緊急避難場所を指定する方向で考えている。

座長

伏見区の場合は、伏見区の中で降らなくても、上流で降れば影響する。早めの準備が必要。

委員

私がこの場にいる意味を考えた。水害のことは、羽束師地域に住んでいる自分が直接受けた被害はなかったが、周りでは床上床下浸水の被害があり、実感はしている。久我・久我の杜・羽束師のまちづくり協議会で話し合われたことの情報が地域住民には回ってこない。町内会に入っていないければ、全く情報が入ってこない。地域、地域というが、何かあったときにどうしたらよいか、末端の人間に伝えられるシステムがあればと思った。大事な話し合いをされていることを、羽束師の人達に伝えていきたいので、そのシステムを私なりに考えたい。

委員

区内の学生を取り込むという話があったが、自分自身も他県出身で区内の大学に通っていた。その時は、地域の中で何かをするというのはアルバイトするくらいしか頭になかったが、今になって、ようやく地域と関わるようになって分かったことがたくさんある。龍谷大学生とのつながりを大切にしてほしい。他の区内の大学にも声をかけて行ってほしい。

水害の話では、横大路小学校も堤防がそばにあり、「どこに行くと危ない」などを話していた。子ども110番の家のように「このような時はうちに来てください」と示せるもの、システムがあってもよいと思う。個人的に友人とLINEやfacebookで写真を投稿し合って水害に関する情報交換や安否確認していたが、そういった簡単に投稿、共有できるシステムを伏見区の災害対策でも一つあれば便利だと思う。

委員

水害の時は、勤務先の倉庫が被害にあった。伏見区で実施されている取組も初めて知ったので、参加していきたい。京都は渋滞が多く、駐車場がない。観光に来られても不便な思いをする。また、ごみも多い。環境の充実も一緒に考えると、もっとよいまちになると思う。

5 村井副座長挨拶

今日もいろいろな話が聴けた。「住みたい住み続けたい、安心安全に暮らせるまち」ということでの意見があった。防災でもいろんな話があった。私はいつも思うが、水害の関係でも、人災にはなるが醍醐森本のポンプ場の件や隠元橋から観月橋にかけての堤防の関係、出された意見は十分分かるが、35学区自主防災会の会長をしているが、日ごろから防災という意識を持ってほしいと安心安全の取組への呼びかけをするが、皆、なかなか出てきてくれない。市民的な権利は主張する。どうしたら、より多くの人に参加してもらえるのかということを考えていくのかと同時に、それぞれの事業もそこだけのものになってはダメ。予算を計上しているのだから、幅広い効果のあるものにしたい。その人だけの趣味というのでは残念である。お互いに義務と権利があるので、権利ばかり主張するのではなくて、安心安全に暮らせるように義務も果たしてほしい。伏見に住んでいてよかったと思えるようなまちづくりに向けて、私も微力ながら頑張っていく決意をした。

6 閉会